本书的特点和使用方法

本教科书是为了学习者在学完由文化厅发行的《生活日语》的基础上，进一步学习日语而编写的。

本教科书的特点，基本上与《生活日语》相同：考虑到“归国者不同于到日本短期旅行访问的外国人，他们需要完全地投入日本的社会生活，并从事工作，为此他们必须掌握一定程度的日语。”这一重要目的，我们收集了日本家庭内的会话、邻居间的寒暄、朋友间的交往等对话作为这本教材的主要内容。

本教科书采用了人们在日常生活中经常听到的自然的口语，避免了那种生硬的、不自然的会话内容，同时也避免了为单纯完成教学任务而编写的脱离现实生活的会话文。在教材的编排上，我们充分地考虑到：要使学习者所学到的日语知识，当天就能用上，而不是等几个星期、甚至几个月以后才能进行实用会话。这是因为我们重视学习者的学习环境，也就是说，学习者没有掌握多少日语，就必须在使用日语的实际生活中继续学习。

《生活日语》的主要目的是：要向学习者说明在日常生活中需要掌握哪些日语，并且教给学习者如何利用比较少的生活用语应付日本的社会生活。不仅如此，这本教材还同时向学习者介绍了比较多的语言环境，还有归国者在自己的日常生活中可能接触到各种场面以及他们经常听到的日语会话内容。之所以编排了种种不同的会话和会话场面，是因为学习者即使是学会了一句话，但是如果不知道应该在什么场合下使用，就谈不到正确使用这句话了。

这种做法虽然有利于提高学习者的实用会话能力，但容易在学习上出现缺乏系统性和完整性的缺点。如果不是日语专业教师来上课，那么这种可能性将会更大。针对这个问题，《生活日语Ⅱ》则是以学习者能够比较系统地掌握日语为中心目的。根据这个主要目标，这本教材从语法上、从词语的使用上，由浅入深，使学习者循序渐进，不断积累和增加自己的日语知识。

为了学习者能把自己在《生活日语》里所学过的知识，在这本教材的学习中进行复习和巩固，并且进一步扎扎实实地学会新的表达方法，我们准备了大量的会话和练习。望大家能够重视课本中的每一项内容，切实做到严格认真地学习。

〔全书的组成〕

全书共有9课，书后附有练习项目索引和词语索引。做为中心内容的9课课文所出现的场面：分别是《请示》、《指示和委托》、《做扫除》、《洗衣服》、《做菜》、《服装》、《器具》、《业

余木工》。这些课文的特点是以日常生活各种场面为中心，并且将人们在这些场合所使用的会话内容做为素材来编写的。

各课的会话文本身几乎不存在什么难易之差，另外在课后的练习中也没有象在初学阶段那样有比较严格的步骤和阶段上的区别。但是从整本教材上来看，其难度也是由浅入深，逐步增加的。我们希望每个学习者在结束《生活日语Ⅱ》的学习之后，能够将自己所掌握到的日常生活用语说得更充实、更丰富。

本教材的另一个特点是：每一课会话文比较少，而解说和练习的部分比较多。平均来说，每一课都有25个解说和练习。

从各课的练习内容上来看，这9篇课文又可分成第一、第二两个部分。第一部分包括第1课和第2课，这一部分以复习《生活日语》的内容为主，主要是要把所学过的知识做到复习和巩固，对基本的语法项目，也做了反复的复习。关于动词和形容词的活用也是从基本的内容开始复习。同第二部分相比，第一部分里说明和练习的部分所占的比例很大。在第二部分(即第3课到第9课)，虽说编排了一定的复习内容，但主要的目的是要让学习者能够掌握更多、更新的表达方式。

练习项目的索引，是把各课后面的练习项目按照词类分别整理出来的。如果要使学习者比较系统地学习日语语法知识，或者要把学习者在学习上的薄弱环节找出来，让他们在家里学习，可以利用这个索引。

词语索引的编集，是为了使学习者查找方便，每一个词语用例一目了然。不仅会话中的词语是这样，就连在练习中出现的新词语，也同样能够很方便地查出来。希望大家在进行预习或复习时，充分地利用这些索引。

〔各课的组成〕

各课的组成如下：

解说(中文)

〔会话-1〕

〔会话-1〕的说明和练习

⋮

〔会话-2〕

〔会话-2〕的说明和练习。

⋮

〔会话-3〕

〔会话-3〕的说明和练习。

⋮

〔会话-4〕

⋮

（以下从略。）

开头的解说只有中文，但和它内容相同的日文写在书末词语索引的前面。不仅所有的会话文均有中文，而且在说明和练习中以及在这两个部分中出现的新词语，也根据需要附有中文。中文译文以自然的语言为主。对汉语里没有的说法或者学习者难以理解的词语，我们设法采取了解释的办法，力求避免学习者对日语产生误解，帮助学习者更准确地掌握语言。

（解说）

每课课文里出现的各种会话场面，在解说部分都是按照日本人的生活习惯或常识，做了条理性的规纳和总结，并且在解说上尽可能做到简明具体，尽量使这些知识能够直接应用于学习者的实际生活中。正因为内容详细具体，所以不免会因此产生一些问题。例如人们通常利用的“无人”洗衣站，因为地区不同、各洗衣站不同，其使用方法也就有所不同，还有吃饭的习惯也是因人而异，各不尽然。解说中所提到的都是一般性的问题，因此与学习者所接触的实际生活可能会有一些出入，这一点请各位教师在教学时要结合学习者的实际生活环境。

（会话、说明和练习）

每课的会话短文选有 5 至 8 篇。从这些会话短文的篇幅上看，第 1 课到第 3 课比较短，而后面几课的会话逐渐增长。

说明和练习这个部分均出现在各课会话之后，每一篇会话和它后面的说明和练习部分都构成一个教学单元。

下面就把这一教学单元的构成做一简单说明。

〔会话-1〕服装の点検

林さんは、今日、会社の面接に行きます。朝、服装を点検します。 1 林　：今日は、ちゃんとした服装をしなきゃ。スーツは、クリーニングしてあるね。 2 夫人：ええ、大丈夫です。 3 ⋮

〈会话文的翻译〉

〔会话-1〕服装的检点

老林今天要去参加公司的面试，早上检点服装。

1 林　：今天我得穿整齐一点儿，西服送洗染店洗好了没有？

2 夫人：洗好啦！

3 ⋮

〔会話-1〕のための練習

〈说明〉

1．ちゃんとした服装（整整齐齐的服装。）

「ちゃんとした」は「ちゃんとした」と大体同じ意味の言葉で……

……

同上中文翻译。

〈说明〉

2．しなきゃ（得……）

「しなければ」の縮約形で……

同上中文翻译。

〈练习〉

練習2-1

例にならって「～なきゃ」で終わる文にかえなさい。

（仿照例句，将下列各句的句末，改成“～なきゃ”的说法。）

例：今日は、ちゃんとした服装をしなければいけません

⟶今日は、ちゃんとした服装をしなきゃ。

一人で作らなければいけません。

⟶一人で作らなきゃ

1．ネクタイを締めなければいけません

2．上着を着なければいけません

3．　　⋮

以下从略。

如上述形式，编排了会话、说明和练习。但有的只有说明而没有练习部分，或者是把说明和练习结合在一起的形式。从练习的形式上来看，除去有做替换造句的练习而外，还有可供两个人进行对话练习的小短文。

教材中的中文翻译和其说明部分是专为学习者在预习时使用的，但是要特别加以注意的是在课堂上要创造一切条件尽可能多地使用日语。希望各位教师在教学中不光是让学习者死记硬背课文中的句子或几个相连的句子，而是培养学习者运用自己所学过的知识来表达自己的思想意志，或者是把这些所学过的知识融汇贯通变成自己的语言，应用于实际生活中去。

另外教师在教会话中的句子时，不应该使学生只停留在理解的阶段上，而应该是训练他们就象背熟台词一样直到能完全脱离书本脱口说出为止。会话不是阅读的材料，而是进行会话练习的口语教材。

各位教师在指导学习者学习的过程中，一定还要注意结合学习者本人的学习能力及其学习目的来进行教学活动。除去使用教科书之外，千万不能忽视准备其会话文的辅助教材和相应的练习内容，另外还要注意各地区所使用的不同说法。

〔会话练习的指导提示〕

1．与预习的关系

课堂上教师教学活动的进展情况与学习者事先预习的程度有很大的关系。如果对会话没有做很好地预习，那么教师在课堂上就很难让学生达到脱口而出的程度。所以教师必须培养学生自觉进行预习的良好习惯。最好是能把录音机的使用方法、出声练习的方法等向学习者做详细具体的示范指导。如果条件允许的话，还可以把下一次所要讲授的新的会话的一部分让学习者念出来，并且告诉他们应该注意的地方。为了保证学习者不仅能够完成作业而且感

到有收获，教师布置作业的量要适当。布置比较多量的预习，有时能够促进学习者的学习，但是更要注意的是要布置确实能使他们掌握得了的预习内容。

2．在课堂上

即使是在一个学生的家里，教师和学生一起围坐在被炉边进行单独教授，这也是一间相当不错的教室了。但是进行这种单独式教学时，往往容易放松对学生的严格要求。使学生在轻松愉快的气氛中学习和对他们进行严格训练不是互相矛盾的，反之松松垮垮、拖拖拉拉的教学方法不是对学生认真负责的态度。

a《会话》

教师没有必要向学习者直接查问："你们预习了吗？"。学生是不是做了予习，教师只要根据本课所要讲授的会话内容提出几个问题，就可以从他们的回答中很清楚地了解到每个人的预习程度。为了了解学习者对会话文的理解程度，只是泛泛提问："明白了吗？"，是根本不能掌握真实情况，所以教师在教学中切忌这种简单的形式主义的教学方法。学习者是否切实掌握了一定的知识，是要取决于教师的教学方法的。学习者即使是说，"我明白了。"，但往往实际上并没有真正明白。

举课文中林达雄的会话句为例。"林：老师，明天我想请假。"这个时候，教师如果要想检查学习者是否已经懂得"明天"这个单词的意义时，可以提出下面的一些问题：①老林他要什么时候请假？②老林是不是今天要请假？等来代替"'明天'这个词是什么意思？"的问法。

在念课文时，不是让学生从开始就一念到底，而教师也要亲自担当会话中的某一个角色，并且要以身做则用自然流畅的会话体做范读，然后再让大家展开阅读练习。在练习的过程中教师也要向学习者尽可能多地介绍准确、标准的日本语。

对会话文里出现的新词语，在备课时不仅要准备这些词语的解释及其使用方法，还应该准备一些问题来检查学习者是否已完全掌握。另外在范读课文以前教师也要做好充分的准备，切实为学习者起到榜样的作用。

b《练习》

在指导学习者进行活用形练习或者单句的口头替换练习时，不应只局限于课本上的例句，教师最好是根据学习者的能力、兴趣等，适当地增加一些练习用的词汇和例句。

做课文中的对话练习时，也要根据课文出现的句型，准备一些经过扩充或者是变化了的会话内容，这样做既能活跃课堂气氛，又有助于检查学习者理解和消化的程度。

另外教师至少还要把教科书中的会话内容记住，如果教师一边看课文一边进行会话，势必会失去会话的真实性而影响教学授课效果，那就不是说话而是"念"话了。

在现实生活里是没有举着书本来说话的，即便在教室里，教师也要反复向学习者强调，

在说话时一定要注意对方的面部表情。在日常会话中，双方的面部表情和相应的动作也是非常重要的。

“再来一遍！”教师一定要用这样的要求来反复地严格地训练学习者。在强调他们反复进行练习的同时，还必须注意不厌其烦地做示范表演。

对学习者的缺点、错误，教师不能用“不对！不行！”这种简单的说法来一语概括，这样做只能增长学习者的急躁情绪。教师要用这样的话：“这样练就一定能会。”、“因为你是这样练的，所以就会了。”等话来不断地鼓励他们所取得的哪怕是点滴的成绩，并且循循善诱，不断使他们感到征服学习上种种困难的胜利感和喜悦感。教师的责任是传授知识，是通过深入浅出的讲解，将复杂深奥的知识变得简明易懂，使学习者从开始的“不会”到会，从“不行”到行，直至完全掌握为止，只有这样才能真正尽到一个教师的职责。

この本の特色と生かし方

この教科書は、文化庁刊『中国からの帰国者のための生活日本語(生活日语)』の学習を終えた人たちが次の段階の学習に進むときに使用することを企図して作成されたものである。

したがって、教科書のもっている特色は、基本的には『生活日本語』と同様に、「一時的な外国人来訪者とは異なり、より深く日本の生活に入り込んで活動し、働いていく人たちにとって必要な日本語能力を身に付けさせる」ことを重要な目的としており、同居家族との会話、近所の人々や知人とのあいさつや言葉のやりとりなどが内容の大きな柱となっている。

教材として採用されている日本語そのものは、日常生活で耳にする自然な日本語を基調としており、人工的な表現や教材の便宜のために歪(ゆが)められた言葉遣いは避けてある。また、数週間、あるいは数か月の学習期間が過ぎなければ実用的な会話ができないという行き方ではなく、学習したことがらについては即日使用が可能になるように配慮してある。これは、帰国者が、不十分な日本語を使用して生活しつつ、その中で更に日本語の学習を進めなければならないという学習環境を大切に考えたからである。

『生活日本語』では、学習者にとって最も必要な日本語が何であるかを示すことと、少ない表現力で生き抜いていくための戦略的な技術を身に付けさせることに目標が置かれた。言葉の使用される環境、帰国者が行動する中で遭遇する場面に関する情報や耳にする日本語も省略することなく提示されていた。これは、たとえ学習者が一つの文表現を覚えていたとしても、使用場面についての知識がなければ言語使用は成り立たないという仮説に基づいた方針であった。

しかし、このやり方は、行動能力を身に付けさせるという点では有益であっても、日本語そのものを、組織的・体系的に習得していくという点では弱点を伴いやすい。教師が外国語教育の専門家でない場合には、その危険性は特に大きい。この教科書『生活日本語II』は、日本語そのものの習得に焦点をあて、文法的に、あるいは語彙(い)使用の面でがっしりとした積み重ねができるようにと意図して制作されたものである。

『生活日本語』で学習し、身に付いた能力を、もう一度復習し直し、その上に新しい表現を確実に習得していくように、会話文や練習が用意されている。提出されている言葉の一つ一つを大切にし、厳しい練習がなされることが期待される。

〔全体の構成〕

全体の構成は九つの課と練習項目索引・語句索引とから成り立っている。中心部分である九つの課で取り扱っている場面は、届出、指示と依頼、掃除、洗濯、料理、服装、器具、日曜大工という各課の題目が示しているように、日常生活の場が中心となっており、そこで交わされる会話表現が中心素材となっている。

この、九つの課の中での難易度の差は、会話文についてはほとんどない。練習項目についても、初級段階のように厳しく段階づけはしてないが、全体としてみれば、易しいものから少しずつ難しいものへと進むように配慮してある。また、最も基本的な表現に、やや豊かさを加えた会話能力がこの教科書を終了した段階で獲得できることを目標としている。

提示されている会話本文の割合に比べ、説明と練習がたくさん用意されているのが、この教科書の特徴の一つである。各課の平均で言えば、1課平均25個の説明と練習が付いている。

特に、この練習への配慮を軸にして、九つの課は、第一部と第二部に分けられ、第一部(第1課、第2課)では、『生活日本語』で学習した事柄の復習に重点を置き、基本的な文法事項の確認も徹底的に繰り返してするようにしてある。動詞や形容詞の活用形の練習も基礎的なものからやり直すことになっており、第3課からの第二部に比べ説明、練習部分の占める割合が圧倒的に多い、第二部(第3課－第9課)でも、復習に対する配慮はなされているが、主たるねらいは、新しい表現をより多く習得させていくことにある。

練習項目索引は、各課の練習項目を品詞別に分類、整理したものである。文法項目を体系的に学習させたいとき、学習が十分でない項目を抜き出して家庭学習させたいときなどに活用されたい。

語句索引は、利用者の便を図るため、一つ一つの言葉の用例が分かるように採取してあり、また、会話本文についてだけではなく、練習部分に現れている語についても、新出語が検索できるようにした。学習者が予習や復習に際して十分に利用することが望まれる。

〔各課の構成〕

それぞれの課は、次のような形式で構成されている。

- ○ 解　説（中国語）
- ○ 会話-1
  - ○会話-1についての説明及び練習

・
・
・

○　会話-2

○会話-2についての説明及び練習

・
・
・
・

○　会話-3

○会話-3についての説明及び練習

・
・
・
・

○　会話-4

（以下 略 ）

冒頭の解説は中国語文しか付いていないが、同じ内容の日本語文は巻末の語句索引の前に掲載されている。また、会話文には、すべて中国語訳が付いており、説明、練習の中でも、新出語などは必要に応じて中国語を併記してある。

中国語訳での用語はできるだけ自然な表現であることを旨としているが、中国語にはない表現、あるいは学習者に理解しにくい言葉など、解説的な表現を工夫してある。学習者の日本語理解に誤解が起こらないよう、また、習得により役立つよう心掛けた。

（解　説）

その課で扱われている場面について、日本人の生活習慣や知識を要領よくまとめて解説したものである。できるだけ生活の知恵としての役割を果たすよう具体的な説明にしてあるが、具体的であるために問題点も残されている。例えば、恐らく、多くの地域では通用するコインランドリーの使用法が、ある町では、あるいは、ある店では異なっていることがあるであろうし、食事の習慣にも個人差があって、解説の中で言っている一般的なものでない場合もあるに違いない。学習者の生活環境に即した生活の知恵に対する配慮が必要となる。

（会話と説明及び練習）

会話は各課に五つないし八つずつ配分されている。それぞれの会話文例の長さは、第１、２、３課など、初めの課では比較的短いが、後半になると長いまとまりの例が現れてくる。説明及び練習は、それぞれの会話文例の後に続けて提出してあり、教授作業としては、一つの会話文例と説明、練習がひとまとめでできるようにしてある。

構成の仕方を略示すると次のようになる。

例：会話

〔会話-1〕服装の点検

林さんは、今日、会社の面接に行きます。朝、服装を点検します。 1 林　：今日は、ちゃんとした服装をしなきゃ。スーツは、クリーニングしてあるね。 2 夫人：ええ、大丈夫です。 3 ⋮

〈会話部分の翻訳〉

〔会话-1〕服装的检点 老林今天要去参加公司的面试，早上检点服装。 1 林　：今天我得穿整齐一点儿，西服送洗染店洗好了没有？ 2 夫人：洗好啦！ 3 ⋮

〔会話-1〕のための練習

〈説明〉

1．ちゃんとした服装（整整齐齐的服装） 「ちゃんとした」は「きちんとした」と大体同じ意味の言葉で……

同上　中国語訳

〈説明〉

2．しなきゃ（得……）
「しなければ」の縮約形で、……

同上　中国語訳

〈練習〉

練習2-1.
例にならって「～なきゃ」で終わる文にかえなさい。
（中国语译……）
例：今日は、ちゃんとした服装をしなければいけません
　　⟶ 今日は、ちゃんとした服装をしなきゃ。
一人で作らなければいけません
　　⟶ 一人で作らなきゃ。
1．ネクタイを締めなければいけません
2．上着を着なければいけません
3．　　⋮

以下、説明と練習が続く。

以上のような形式で会話、説明、練習が配置されているが、説明の1の場合のように、説明があって練習がないもの、説明の2の場合のように説明、練習ともにあるものがある。練習の形式はここにあがっているように文を作りかえるだけのもののほか、ひとまとめの

会話の流れを二人で話し合う形のものもある。

翻訳説明は学習者が予習するために使われ、教室では、できるだけ日本語を使う時間を多くすること、さらに、教科書にある文や文のつながりを暗誦できるようにするだけでなく、学習者が自分の考えで意見を言ったり学習者自身のことについて話したりさせて学習者自身の言葉にしていくよう練習させなければならない。

会話の文章も、理解して分かるという段階にとどめず、お芝居のせりふのように、教科書を見ないで言うところまで訓練することが望ましい。会話文は、読解の材料ではなく、話し言葉の題材である。

学習指導に当たっては、学習者の能力や目的に合わせて訓練することが教師の大切な役割となる。それに沿った副教材、練習材料を準備することを怠ってはならない。また、地域の言葉に対する配慮も忘れてはなるまい。

〔会話練習指導のためのヒント〕

1：予習との関係で

教室での作業の内容は、予習の出来上がりと深い関係がある。よく予習が出来ていないと、教室での学習が、その表現を自動的に言えるところまで持っていけなくなる。予習の習慣をしっかりと付けさせたい。そのためには、テープレコーダーの使い方、声を出して練習するなどの予習の仕方を具体的に見せておくとよい。できれば、次回に学習する部分の一部を読ませ、こういうところに注意して予習しなさいと指摘しておく。達成感を持たせるために宿題の量を加減することも必要である。たくさんの量をこなしてくるよう指示することも時にはよいが、深く確実に身に付くよう予習の適切な量への配慮も大切である。

2．教室の中で

だれかのうちで、こたつを囲んで個人教授をする場合も、そこは立派な教室となる。ともすれば個人授業では、学習者を甘やかしてしまいがちである。やさしく楽しく勉強をさせることと、ビシビシ練習することとは矛盾しない。だらだらしたやり方は、本当の親切ではない。

a.「会話」

「予習してきましたか」といちいち尋ねる必要はない。してきたか、してこなかったかは、その課の会話の内容について、幾つかの質問を用意していて、問いかけてみればすぐ分かる。内容を理解しているかどうかについて「分かりますか」と尋ねるのはタブーである。分かっているかいないかは、教師の責任で確かめなければならない。学習者が、「分かりま

す」と答えても誤解していることも少なくない。

林:「あのう先生、あした休みたいんですが」という例文について「あした」の意味が分かっているか確かめたいときには、「林さんは、いつ休みたいんですか」「林さんは、今日休みたいんですか」等々の質問をすることにより、「あしたの意味が分かりますか」に代えることができる。

初めから学習者だけに読ませるのではなく、教師が登場者の一人の分を担当して読むなどして、話し言葉らしいお手本を見せてから読みの練習を展開していくのは、練習の場合にも共通して言えることで、できるだけたくさんよい日本語を学習者に示す役割を教師は期待されているのである。

会話文の中にある、言葉の意味や用法について説明するための準備だけでなく、学習者が理解しているか否かを確かめるための質問を十分に用意すること、お手本としてのよい読み方ができるよう準備をしておくのも教師の務めである。

b.「練習」

活用形の練習や単文の言いかえ練習では、教科書に出ている例だけではなく、学習者の能力や興味に合わせ、追加して練習するための語例、文例を用意しておくとよい。

会話のやりとりの練習でも、教科書にある形を発展、変化させたものを用意しておくと授業は楽しくなる。覚えたかどうかを確かめるのにも役に立つ。

少なくとも教科書に出ている形は、教師は、暗記しておくべきで、教師が本を見ながら練習を指導しているようでは生きた会話の練習にならない。

実際の会話では、本を見ながらすることはない。相手の顔を見ながらするのが重要なのだということを教室内の練習でも意識するようにしたい。表情や動作を伴わせることも大切である。

「もう一度」という指示を繰り返し、完全にできるよう何度も繰り返し言わせる厳しさも忘れてはならない。その際には、学習者に繰り返させるだけでなく、よいお手本をいちいち与えることが重要だ。

学習者の間違いや欠点を、「駄目です」と指摘するだけでは、欲求不満が募りやすい。こうすればできる、こうしたからできたという習得、克服の喜び、満足感を与えるように指導したい。教師の役割は「難しいこと」を「易しくすること」であり、「駄目なこと」を「駄目でなくすること」である。